

Back Number

本論文は

世界経済評論 2023 年 3/4 月号

(2023 年 3 月発行)

掲載の記事です



世界経済評論 定期購読のご案内

年間購読料

1,320円×6冊=7,920円

6,600円

税込

17%

送料無料

OFF



富士山マガジンサービス限定特典

※通巻682号以降

定期購読
期間中

デジタル版バックナンバー 読み放題!!



世界経済評論 定期購読



☎0120-223-223

[24時間・年中無休]

お支払い方法

Webでお申込みの場合はクレジットカード・銀行振込・コンビニ払いからお選びいただけます。
お電話でお申込みの場合は銀行振込・コンビニ払いのみとなります。

Fujisan.co.jp
雑誌のオンライン書店

外国人留学生の「就職・就労」と「採用・活用」：ダイバーシティ&インクルージョンの視点を踏まえた分析

兵庫県立大学名誉教授・客員教授、
大阪商業大学名誉教授

安室 憲一



[編著者] 古沢昌之 (ふるさわ まさゆき)

近畿大学経営学部教授

[発行] 白桃書房, 2022年9月

[判型] A5判, 256ページ

[定価] 本体 3,545円+税

これから先進国は急速な人口減少を経験する。少子化と高齢化により、労働人口が急減する。移民を含む外国からの労働力移転がなければ、国内経済の衰退は免れない。人口に余力がある発展途上国からいかにして留学生や研修生を招き、自国内で教育・研修を行い、自国企業に就職してもらい定着を促すが、国や企業の基本政策になる。とくに、高齢化で世界の先頭を行く日本は、他国に遅れをとることはできない。ところが、高度外国人人材の受け入れで遅れているのが日本の現状なのである。

日本政府は2020年を目途に留学生30万人計画を打ち出した。2019年には312,214人に達し、目標を達成したが、定着率は39.0%に過ぎない(2022年度ディスコキャリアリサーチ調

べ)。外国人留学生は何を感じ、どう考えているのか？本書は、留学生の日本企業への就職を体系的に調査・研究した最初の書物である。

第1章では、本書の理論的枠組が示される。各国の文化の多様性と異文化シナジー効果についてグローバルな観点から論じている。第2章は、日本の留学生受け入れと就職の現状分析。第3章は、日本の大学のキャリアセンターに対するアンケート調査報告である。第4章・5章は、外国人採用に関する日本企業のアンケート調査分析が示されている。ここで注目すべき点は、日本企業の採用担当が、外国人留学生(その大半は中国や東南アジアの学生)を日本人とほとんど区別せず採用試験をしていることである。彼らの「異文化性」はほとんど考慮されていないようだ。第6章は、留学生に対するアンケート調査、第7章は、留学生に対するヒアリング調査である。ここでは、留学生が何を考え、どんな要望を持っているかが明らかにされる。第8章は、元留学生の外国人社員へのヒアリング調査である。個人的理由(家族の都合等)で帰国した元留学生も少なくないが、多くは日本企業で満足して働いている。その実例は、第9章の住友電気工業、パナソニック、本多機工、ユニバードの事例で示されている。終章では、本書の総括と大学・企業・留学生に求められる変革を論じている。

本書は、外国人留学生の日本企業への就職の障害が何であるかを明らかにした。近年では留学生を採用する日本企業も増えたが、多くは彼らの「外国性」を尊重・活用する視点を欠いている。日本企業は、世界中から優秀な人材を引き付け、定着させるために何をすべきか。その鍵をにぎるのが、人材の「多様性」と「異文化の受容」である。つまり、本書は21世紀に生き残るために、日本企業の経営はどのように変革されなければならないかを示唆している。本書は「留学生の採用・定着」を通して、日本企業の「内なるグローバリゼーション」を考察する最初の書物である。

(やすむろ けんいち)